第７０期生に聞く「小原台で得たもの」



海上自衛隊幹部候補生学校
第７７期一般幹部候補生課程　第５分隊
一般幹部候補生　海曹長　大矢　秀一

海上自衛隊幹部候補生学校 第７７期一般幹部候補生課程（Ｉ課程）の大矢候補生です。この度、防衛大学校７０期本科学生の卒業生を代表し、「小原台だより」に寄稿する機会をいただきました。

小原台の地は、草創の時代から先輩方が歴史を紡いできた場所です。その面では、この江田島の地と近しいものを感じます。その多くの歴史の中で、時代の変化とともに組織は「変革」し続けています。では組織を「変革」させているのは誰か。他でもない我々と同じ「人間」です。しかし、変革を成し得たのは、その人が天才だったからでも、人よりずば抜けていたからでもありません。それは、「挑戦する心」と、「問題意識」と「周囲を大切にする人間力」を持った人間だったからこそ成し遂げることができたのだと私は思います。今日はこの3つについて自身の防大時代の経験から綴ろうと思います。

最初に「挑戦する心」について伝えようと思います。挑戦という言葉は読んで字のごとく、「大きな壁に挑んで戦う」という意味です。皆さんもよくこの言葉を使われると思います。しかしこう考える人はいないだろうか。「挑み戦うからには失敗は許されない」と。私もそのように思っていた一人です。しかし実はそのようなことはありません。失敗していいのです。私は防大時代に大隊学生長を務め、自身の大隊のため多くの企画を立案、実行しました。しかし大半が失敗でした。失敗から多くの改良を重ね最後には、後世に残せるような企画へと昇華させることができました。このことから私は考え方を変え「失敗は次の挑戦の足掛け」であると考えることにしました。挑み戦うからには必ず成功させるのは武人として当たり前のことです。しかし、それが一回の挑戦のみであるとは限りません。多くの失敗から学び、最後に成功をもたらせればよいのです。失敗は宝です。失敗からしか学べないことが多くあります。だからこそ防大生には様々なことに挑戦し、たくさん弾き返されてください。成功を信じてあきらめることなく突き進んでください。

次に「問題意識」です。日々を送る中で、不便に思ったり変えればいいのにと思うことはないだろうか。特に多くの人が所属する自衛隊ではそう思うことが多いと思います。その気持ちこそが問題意識の「種」であると思います。その「種」をまずは見つけ、しっかりと心のうちに持っておいてほしいと思います。多くの人は自身が変革するのを諦め、誰かがやってくれるのを期待し、外野から文句を言うだけの存在へと至ってしまいます。つまり、心のポケットからその「種」を捨ててしまうのです。しかし、その「種」を大切に持っておき、先ほど述べた一歩踏み出す「挑戦」という名の水を与えれば「問題意識」という種から、「問題解決・改善」という名の芽が育つはずです。そうすれば、問題意識を分析しその根本原因を突き止め、解決策を見出せるはずです。それが「変革」というものだと私は思っています。しかし、「変革」は一人では成し遂げられません。新芽を周りから包み込み育てる太陽が必要です。その太陽こそがあなたを周囲から応援し、支えてくれる人々であり、そのような応援者を増やすための能力が人間力であると思います。

最後に「人間力」についてです。組織で何かをするとなると、組織の長が指示を出しても周りが動かなければ何も成し遂げられません。では周りを動かすには何が必要か。私は人間力であると思います。人間力は多くの要素で構成されており、1つ目に周りを巻き込む力。2つ目に自他ともの幸福を願う心。3つ目に強い信念です。この要素がないと人はついてこないし、多くの人から愛されるリーダーにはなりえないと感じました。これは防大時代、様々な場面で組織の長をさせていただける機会があり、良き同期や後輩に恵まれて過ごしてきた際の経験に基づくものです。この際、損得勘定を捨てることに注力しました。何かをしたからその見返りを求めるのではなく、無償の親切心を与えることが重要です。

挑戦、問題意識、人間力が揃ってこそ「変革」という大きな木が育ち、その幹は確実に太く長いものになっていくと思います。だから防大生にはその木を育てられる人材に成長してほしいと思います。防大の4年間は長いようであっという間です。悔いのない４年間を！